



# 黒小だより



令和7年10月31日

第7号

【今年度の重点目標】 ～豊かに表現し、学びを深める子の育成～

○学ぶ楽しさと成長を実感できる学校 ○元気な挨拶と思いやりにあふれる学校 ○保護者・地域の信頼で結ばれる学校

「スポーツの秋」「芸術文化の秋」「読書の秋」 もう少し秋を楽しみたい…

校長 半田 健一

今月は町内の保育園の運動会を参観する機会がありました。「かわいらしい」の一言。遊戯の様子を見てみると、下の年齢の子は音楽によって自由に体を動かすだけで楽しそうでしたが、4歳、5歳と上がってくると、先生の動きと同じように動かしたいという気持ちが育ってくるのがよくわかりました。また、保育園では、先生が子どものそばでお手本を見せながら発表していることがわかり、それがわかると5月の小学校の運動会で、1年生がお手本無しで発表していることは凄いことなんだなと改めて思いました。

そして、過日は本校の学習発表会が行われ、多くの皆様の温かい拍手で児童を包み込んでいただきました。誠にありがとうございました。

学習発表会の目的は、授業で身につけたことを生かした表現活動への取組を通して、児童を育てることです。この「表現活動」に対しては、好きな子も嫌いな子も、得意な子も苦手と感じている子もいます。ですから、集団としての目標を定めながらも、一人一人のゴールは同じでなくてもよいと思っています。小学校の時の先生が、大きな声を出すことが苦手な友達に「〇〇さんは小さな声での演技がとても上手だから子ども③の役を任せたよ。」と伝えたことをよく覚えています。大切なことは一人一人が明確なゴールを設定し、そこに向けて真剣に取り組むことです。

私の目にはステージでの子ども達がいともよりたくましく見えました。がんばってきたからこそその自信や表現意欲が内面からにじみ出た姿なのだろうと感じ、嬉しさで満たされました。

28日から11月にかけて、読書強化月間の取組も行っています。担任シャッフル読み聞かせや、本のひろばさんの読み聞かせ、余市町図書館の協力を得ての読書イベントなどがあります。

私からもおすすめの絵本の紹介をさせていただきます。(どちらも余市町図書館にあります)



## 「もっと おおきな たいほうを」(二見正直作)

幼児～低学年向けとなっていますが、奥が深い！ 私たちのものの考え方について問いかけられている(と思う)！ 6年生にも読んでほしい絵本です。国際紛争の止まない世界を救う一冊(だと思う)！



## 「ぶたのたね」、「また ぶたのたね」、「またまた ぶたのたね」(佐々木マキ作)

…この3冊かと思っていたらさらに続編「あやしいぶたのたね」もあったー!!

4冊とも8割がた同じあらすじなのですが、どこが違うのか予想しながら読んでみると、残りの2割でこちらの予想を必ず超えてくる！

おおかみが不憫で涙…でも笑いでそれも吹っ飛んでしまいます。

本は作者が表現したものです。学芸会では子ども達が表現をし、保護者の皆様に感受していただきましたが、読書では子ども達が表現を受け止める側となります。ゲームやyoutubeと違い、自分で文字を追いながら、想像したことをつなぎ合わせていく地道な営みではありますが、相手の表現を受け止めることは、相手が何を考え、どう感じているのかを想像できるようになるための大切な営みです。豊かな感受性は、豊かな人生につながると考えていますので、これからも地道なおせっかいを続けさせていただきます。

